



令和6年度は、高女に大きな変化が生じた画期的な年となりました。その変化を振り返ってみたいと思います。今年度、SAHとして実施した9つの取組の順に振り返ります。

## 1 Aタイムという、生徒が自由に使える時間が用意されました。

☆生徒は、事前の計画書提出とともに、その時自らが考える最善の学びを創り出す時間として、「自らの学びを調整する時間」として時間を自由にデザインする経験を重ねました。活動の幅については議論があるところですが、生徒の皆さんが自らが考え、判断して行動していくことを応援することを基本としています。(ただし、安全確保が最優先されるので、それについては各自責任ある行動が求められています。)

## 2 個別最適な学習支援として、長期休業中の全員補習及び休業明けの校内実力テストが廃止されました。

☆長期休業中の個別最適な学習支援のため、1, 2年生については長期休業中の全員補習を廃止し、それに代わる希望者補習(セミナー)・学習会に変わりました。また休業明けの実力テストを廃止し、模試や科目ごとの単元テストなどから始まる新しい流れになっています。やるべきことを計画して取り組むという意識改革、行動改革が、より求められる環境となっています。

## 3 1年生でチーム担任制を始めました。

☆1年生で、高女の歴史で初めてチーム担任制を導入しました。生徒の皆さんと先生の間をよりオープンにし、皆さんがいろいろな先生方の意見や考え方に触れる機会を増やすためでした。アンケートでは、約75%の生徒が来年度もチーム担任制でよい、と回答しており、来年度は1, 2年生で実施することとなりました。また、3年生は固定担任制で行います。チームを組む担任の先生方も、新しいこのしくみが生徒にとってよい環境となるよう、共通理解など、最善を尽くしています。

## 4 「学びの時間の確保」のため、1, 2年の土曜講座を廃止し、1学期中間テストをスリム化しました。

☆1, 2年の土曜講座を廃止しました。これについては、現状としては一部、週末の部活動時間が増えるという状況になっています。週末の「学びの時間の確保」については、学校の環境づくりと生徒の皆さんの工夫の両面から進めることが課題です。1学期中間テストに関しては、単元テストを実施して中間テストに変えた科目、期末テストの範囲が増えた科目と、科目により、対応が多様となりました。生徒の皆さんの多くの意見に、期末テストの負担が増えるのなら、中間テストは実施してほしい、との声があがっています。来年度については、指導の多様な工夫と充実を含め、1学期中間テスト実施の最終検討を図っています。

## 5 総合的な探究の時間の充実化を図り、1年生から各自の関心に向き合い始めました。

☆総合的な探究の時間では、人生の岐路とも言える高校時代に、実社会と関わりながら、自己の在り方生き方、よりよい社会の在り方を考え、高校生の出来る範囲で実際に地域社会に貢献し、将来の進路選択に結びつける探究活動を実施しています。これは、「SAH」に指定されたから実施するわけではなく、教育基本法、学習指導要領(全高等学校に当てはまるもの)を踏まえて実施していくものです。ぜひ、様々な「現場」に行き、本物の課題や本当にやりたいことを見つけましょう。来年度、新1年生では、社会との接点をより強化するために、探究型インターンシップを4日間実施します。その関係もあり、2単位に変更になりました。

## 6 生徒有志からなる「SAH委員会」が要望した意見書をもとに、生徒会、評議会が審議し、生徒の学校生活に関わる大きな行事や校則の一部が変わりました。

### ① 椎樹祭の毎年開催を始めました。

☆毎年開催が決まった後、有志による椎樹祭実行委員会の生徒たちが大奮闘して実現しました。クラス企画を選択可能としたり、有志企画を導入したり、休憩部屋を確保したり、と新たな工夫を盛り込んだ初めての毎年開催となりました。

## ②生徒の要望から、セーターが学校の制服扱いになりました。白いコートも可に。

☆昨年度のSAH委員会により、「服装や校則の見直し」が学校側への要望として出され、今年度5月の生徒総会で決定した議案により、上記内容が決まりました。決定に至る流れは、議案を生徒から募集し、生徒会で検討して生徒総会で可決というものでした。これにより、防寒着として制服の上着の下に着ることになっていた学校セーターが制服扱いとして、セーター姿で登校することが認められました。また、従来、着用できる色に含まれていなかった白色のコートも着用可能となりました。

\*その他、従来7月に行っていた球技大会と9月に行っていたスポーツの日をドッキングすることを行事のスリム化の観点から学校中心に検討し、**新体育祭として9月末に実施することになりました。**それに伴い、新体育行事の内容を生徒会と体育行事検討委員会で検討し、生徒の意見を吸い上げて実施しました。**会場も生徒の希望をとって、高崎アリーナで初めて実施**となりました。

☆生徒会と体育行事検討委員会で検討し、案を作り、生徒の希望をとって、1日目は球技大会的行事、2日目はそれに加えてスポーツの日の行事を再編して新メニューをつくり、実施しました。スポーツの日に、稲荷町校舎となってから毎年行ってきた組団ごとのダンスについては、希望をとったところ、なんと1票差で3年生はダンスをしないことに。やりたかった3年生も多くいることをもとに、「誰もが納得できる」ために、どうしたらいいか、さらに工夫していきたいと生徒会役員が語ってくれました。

## 7 開校記念式典が初めて生徒の手による企画・運営で行われました。

☆創立125周年で初めて、生徒が企画した内容で開校記念式典が6月6日に実施されました。有志10名による開校記念式典実行委員会が組織され、高女の歴史にまつわるクイズを作問、生徒はクイズに答えながら、高女の歴史の一端に触れました。また、従来学校主導で講師を選定していた記念講演会を、生徒が講師を考え、交渉し、PTA、教育振興会の協力を仰ぎ、招聘にこぎつけました。講師となった大澤直美さんは、本校のグローバル研修in USAにて、毎年ニューヨークの群馬県出身者の方々を集めて座談会を開いてくださっている方で、実行委員会の生徒がその経験を通して大澤さんを知り、交渉して実現したものでした。

生徒企画の学校説明会が定着してきました。

☆実施3年目となる生徒企画の学校説明会。生き生きと説明や案内をする先輩方を見ながら、中学生は高女への志望動機を高めているようです。実行委員の生徒たちは体育館でオープニングを行った後、教室内に案内し、各教室で、テーマごとに責任者を決めてスライドを作成し、それぞれ充実した説明をして中学生や保護者の方々の関心を引いていました。

## 8 修学旅行において、生徒が選んで決める内容や行程がより多くなりました。

☆今年度は初めて、京都駅到着後から夕方奈良のホテルまで班別研修で移動する日程を修学旅行委員会を中心につくり、実施しました。従来は、京都駅到着後、バスでクラスごとに移動、という流れであったのが大きく変わりました。そのほかについても、より生徒が主体的に考え、行動する修学旅行を目指しました。

## 9 SAHのポスター、グランドデザインを初めて生徒が作りました。

☆生徒有志による高女SAHをより広く知ってもらう「広報戦略チーム」がつけられ、学校のSAHの取組や特徴を紹介するポスターが100%生徒の手で作成されました。また、グランドデザインのチラシづくりにも同様に取り組んでくれ、内容を学校で定めた後、チラシのデザインが生徒の手により作成されました。

## ○結びに

これらの今年度の変化は、生徒がより「自ら考え、判断し、行動できる生徒」に育っていける学校づくりの一環として行ったものもありますが、生徒の皆さんが機会をとらえ、よりよい高校生活や自分の現在と未来のために、考え、判断し、行動することを重ねて創り出してきたことがあってこそその変化が大きいと理解しています。

来年度は、皆さんに意見をもらいながら策定した取組を、先生方は「生徒の充実した高校生活とよりよい未来のために」全力でサポートしていきます。生徒の皆さんは、よりよい自己と高校生活、そして社会、日本、世界の現在と未来をつくるべく、「自ら考え、判断し、行動する」ことを重ねていってほしいと思います。皆さんのこれからのますますの発展と将来にわたる活躍に期待しています。